

三陽機器

ローダ除雪に注目 ミニローダに引合い活発

冬場の降雪シーズンを控え除雪機の早期販売が進む中、三陽機器(寺前公平社長・岡山県浅口市群里町新庄3858)のフロントローダの引き合いが活発化して注目を集めている。5年ぶりの大雪が取り沙汰される中、トラックに乗車したまま一度に多量の雪が処理できる「省力性・効率性」が人気の理由だが、除雪シーズンが終わっても、「整地・軽土木・運搬作業など1年中作業が行えることも魅力」の一つとなっている。

フロントローダには豊富な機種群が揃っており、除雪の場所や量、手持ちトラックの馬力帯などに選べる。本格的な除雪作業には「ロードマスターGLD・SANシリーズ」が、小型トラックには安価型の「ミニローダCLDシリーズ」が、またグレードアップしたミニローダとして「スーパージニアミニローダSCLDシリーズ」

がある。中でも小型トラック専用の「ミニローダ」はトラック販売の戦略機種と位置付ける販売店も多く、「3つの魅力」でこの秋、早い動きが予想されている。魅力の一つは過酷な除雪作業がトラックに乗車したまま楽に行える点。特に高齢のユーザーからは「疲れず安全に作業でき、おおいに仕事はかどった。予想以

上の力に驚いた」など購入できる安価を実現。蓄積した技術を応用し、機能を絞り込み、軽量コンパクト化を実現して大幅なコストダウンに成功している。また三つ目は除雪作業と多用途に使え、整地・軽土木・運搬作業など1年中作業が行えることも魅力の一つとなっている。



除雪シーズンを控え、荷動きが活発化するミニローダ

また三つ目は除雪作業と多用途に使え、整地・軽土木・運搬作業など1年中作業が行えることも魅力の一つとなっている。

トを指摘する声が多い。同機は平成11年発売以来、これまでフロントローダの普及が少なかった小規模兼業農家層やハウス農家へ浸透。とりわけ「除雪作業にうってつけ」と降雪地帯で人気を呼び、家周りや道路の除雪に広く用いられている。降雪地帯では、農家だけでなく、日常的に除雪が必要な事業所や各種の店舗にも、小型トラックとともに導入されるなど、まさに、思い切った経済価格が潜在していた需要を掘り起こしたかたちだ。